Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第44号
2024年（令和六年） 2月23日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

2/8～2/14のNYMEX・WTI先物市場は76.22～77.87ドルの範囲で推移した。

2月15日は、この日発表の1月の米国小売売上高が予想以上に軟調で、早期利下げ予想が高まり、反発した。米国株式市場の好調、為替市場のドル安も、上昇要因。なお、この日発表の国際エネルギー機関（IEA）月報は、2024年の需要見通しを据え置き、大きな影響はなかった。3月物終値は前日比1.39ドル高の78.03ドル。

週末16日は、この日、イスラエル軍はガザ南部ハンユニスの病院に突入、パレスチナ情勢の緊張激化で続伸した。3連休を控え、ポジション調整の買いも多かった模様。3月物終値は前日比1.16ドル高の79.19ドル。

19日は、大統領の日の休日につき休場。

連休明け20日は、先週末高値の反動・利益確定売りの動きから、3営業日ぶりに反落した。今後の需給見通しの弱気も値下がり要因だった。ただ、最近のパレスチナ・紅海情勢の緊張は下値を支えた。3月物終値は前日比1.01ドル安の78.18ドル。

21日は、ハマス支援を掲げるイエメンの親イラン武装組織フーシの紅海における商船・タンカー攻撃が続く中、米国はウクライナ戦争に関連し対ロシア経済制裁の強化を発表するなど、地政学的リスクの高まりから、反発した。なお、前週末の米国石油在庫統計は、月曜休日につき、22日発表の予定。この日から取引の中心限月に繰り上がった4月物終値は前日比0.87ドル高の77.91ドル。

財務省が2月21日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月下旬の原油輸入平均CIF価格77,510円で前旬比508円安、ドル建て84.65ドルで前旬比1.78ドル安、為替レートは1ドル/145.59円。また、1月月間の原油輸入平均CIF価格77,647円で前旬比5,830円安、ドル建て85.71ドルで前旬比4.51ドル安、為替レートは1ドル/144.03円。

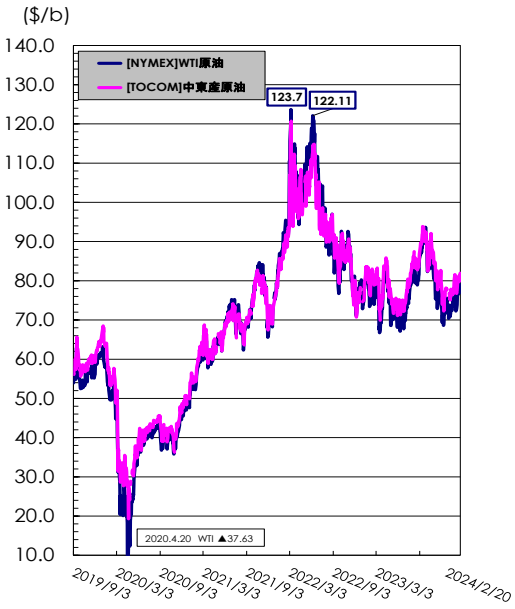
中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は、2月8日～14日の間、79.20～80.90ドルの範囲で推移。2月15日80.10ドル、16日80.90ドル、19日80.60ドル、20日81.20ドル、21日81.10ドル。

対ドル為替レート（TTM）は、2月8日～14日の間の間、148.15～150.68円の範囲で推移。2月15日150.49円、16日150.26円、19日150.03円、20日150.38円、21日150.16円。

そのような中で、2月19日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は1円の値上がり（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.3円となった。

2月22日～28日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.3円（補助金がない場合の次週予想価格196.1円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は11.1円）となった。

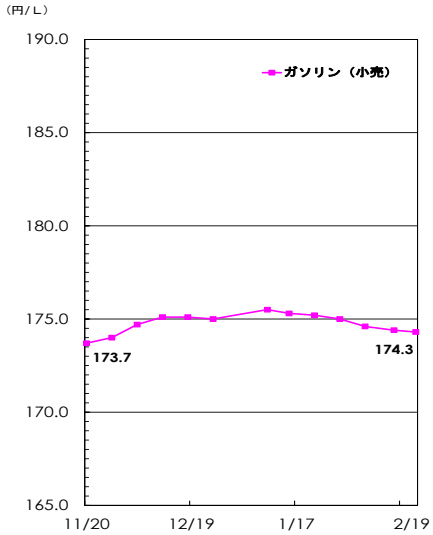
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/11 ～ 2/17	2,656	▼ -29	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	73.9	▼ -0.8	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	2/17	11,175	▲ 582	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	2/19	81.26	▲ 0.52	▲ 0.4
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	2/20	78.18	▲ 1.26	▲ 2.0
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	1月下旬	84.65	▼ -1.78	▼ -3.62
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	77,510	▼ -508	▲ 4,174
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	145.59	▼ -2.09	▼ -13.50
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	2/19	151.03	▼ -0.64	▼ -15.58



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/11 ～ 2/17	843	▼ -86	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	778	▲ 5	▲ –
	輸出		〃	104	▲ 1	▼ –
	在庫		2/17	1,802	▼ -39	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/13 ～ 2/19	77.7	▲ 0.6	▲ 6.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ～ 2/19	81.0	➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	2/19	80.0	▲ 1.0	▲ 5.3
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/19	174.3	▼ -0.1	▲ 6.9

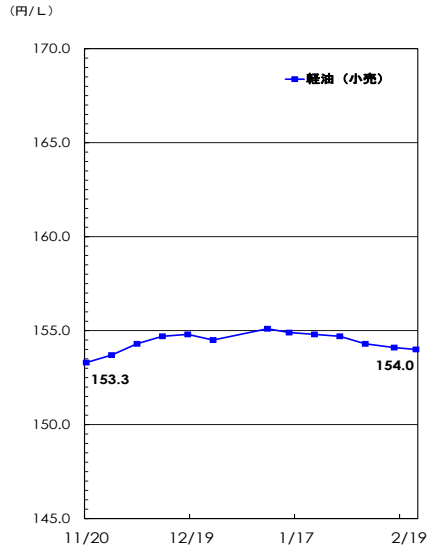
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

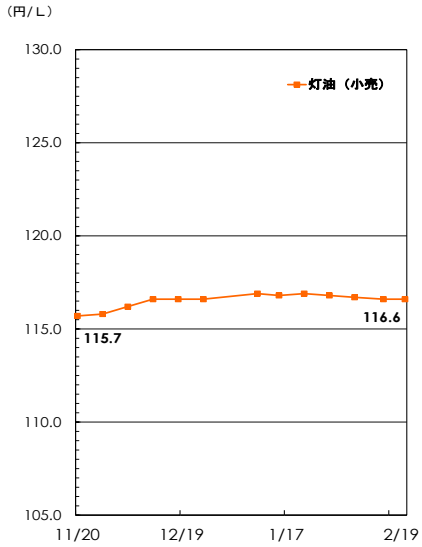
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/11 ～ 2/17	655	▼ -64	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	568	▼ -46	▼ –
	輸出		〃	84	▼ -30	▲ –
	在庫		2/17	1,552	▲ 1	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/13 ～ 2/19	79.0	▲ 0.3	▲ 4.6
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ～ 2/19	82.0	▲ 0.4	▲ 5.4
		(TOCOM/中部)	2/19	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/19	154.0	▼ -0.1	▲ 6.4

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/11 ～ 2/17	251	▲ 50	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	255	▼ -289	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	▼ –
	在庫		2/17	1,603	▼ -4	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/13 ～ 2/19	79.9	▼ -0.1	▲ 4.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/13 ～ 2/19	82.5	➡ 0.0	▲ 7.0
		(TOCOM/中部)	2/19	80.0	➡ 0.0	▲ 3.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	2/19	116.6	➡ 0.0	▲ 5.7



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（2月15日～21日）のWTI石油先物市場は、パレスチナ・紅海の緊張が続く中、米国の堅調な経済を背景に、反発の15日の78.03ドルで始まり、16日も続伸、20日は高値の反動・利益確定売りで反落したが、限月の変わった21日は反発の77.91ドルで終わった。週を通じて、3ドル程度上昇70ドル台後半の水準で堅調に推移した。

2月16日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、月曜休日につき22日発表。

EIAによると、2月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.7セント高の1ガロン3.269ドル（130.3円/㌘）と5週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比横ばいの1ガロン4.109ドル（163.8円/㌘）。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、2月16日時点で、前週比2基減の497基と3週ぶりの減少であった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2024年2月11日～2月17日に休止したトッパー能力は49.9万バレル/日で、前週に対して14.2万バレル/日増加した（全処理能力は323.0万バレル/日）。

原油処理量は265.6万klと、前週に比べ2.9万kl減少。前年に対しては40.4万klの減少。トッパー稼働率は73.9%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては8.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.2%減、ジェット/11.7%減、灯油/24.9%増、軽油/8.9%減、A重油/9.7%減、C重油/0.4%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl。軽油の輸出は8.4万kl（前週比3.0万kl減）。

出荷（輸入分を除く）はガソリン、ジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は77.8万kl（対前週0.6%増）と3週振りに増加した。ジェット12.6万kl（対前週11.0%増）、灯油25.5万kl（対前週53.1%減）、軽油56.8万kl（対前週7.5%減）、A重油20.6万kl（対前週15.9%減）、C重油12.9万kl（対前週21.7%増）。

（単位：千KL）

	今週 (2/11 ~ 2/17)	前週 (2/4 ~ 2/10)	前週比	
ガソリン	778	773	▲ 5	(1%)
ジェット燃料	126	113	▲ 13	(12%)
灯油	255	544	▼ -289	(-53%)
軽油	568	614	▼ -46	(-7%)
A重油	206	245	▼ -39	(-16%)
C重油	129	106	▲ 23	(22%)
合　計	2,062	2,395	▼ -333	(-14%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

2月17日時点の在庫はガソリン、灯油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは180.2万kl、前週差3.9万kl減。前年に対しては9.7万kl多い。

灯油は160.3万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては14.1万kl多い。

軽油は155.2万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては25.2万kl多い。

A重油は70.8万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては2.0万kl多い。

C重油は185.8万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては14.6万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (2/17)	前週 (2/10)	前週比	
ガソリン	1,802	1,841	▼ -39	(-2%)
ジェット燃料	755	751	▲ 4	(1%)
灯油	1,603	1,607	▼ -4	(-0%)
軽油	1,552	1,551	▲ 1	(0%)
A重油	708	690	▲ 18	(3%)
C重油	1,858	1,853	▲ 5	(0%)
合　計	8,278	8,293	▼ -15	(-0.2%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

2月13日～19日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られる。

上記コスト上げから、補助金増額幅1.9円を差し引くと、2/22～2/28の実質卸価格は値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

2月13日～19日の製品スポット市況は、2月6日～12日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばい、灯油の海上・陸上取引の値下がりを除いて、値上がりした。

直近週(2/13～2/19)の陸上スポット価格平均値は、前週(2/6～2/12)比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(2/13～2/19)に、前週(2/6～2/12)比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.4円の値上がりだった。

(RIM)　（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(2/13 ~ 2/19)	前週　(2/6 ~ 2/12)	前週比
スポット価格	レギュラー	77.7	77.1	▲ 0.6
	灯油	79.9	80.0	▼ -0.1
	軽油	79.0	78.7	▲ 0.3

(TOCOM)　（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(2/13 ~ 2/19)	前週　(2/6 ~ 2/12)	前週比
先物価格	レギュラー	81.0	81.0	➡ 0.0
	灯油	82.5	82.5	➡ 0.0
	軽油	82.0	81.6	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値　(2/13～2/19実績値)　（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	➡ 0.0	▲ 0.3
灯油	▼ -0.1	➡ 0.0	▼ -0.1
軽油	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.3
A重油	▲ 0.3		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

2月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.3円、軽油も0.1円安の154.0円、灯油は18ﾘｯﾄﾙベースで1円高の2,099円(1ﾘｯﾄﾙベースでは横ばいの116.6円)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は4週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが17都府県、横ばいは高知等5県、値下がりが25道府県だった。全国最安値は徳島県の165.4円、その次は岩手県の169.1円であった。他方、最高値は長野県の184.3円。最も値上がりしたのは長崎県(同0.5円高)、最も値下がりしたのは愛媛県(同1.2円安)だった。

次回調査時(2/26)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

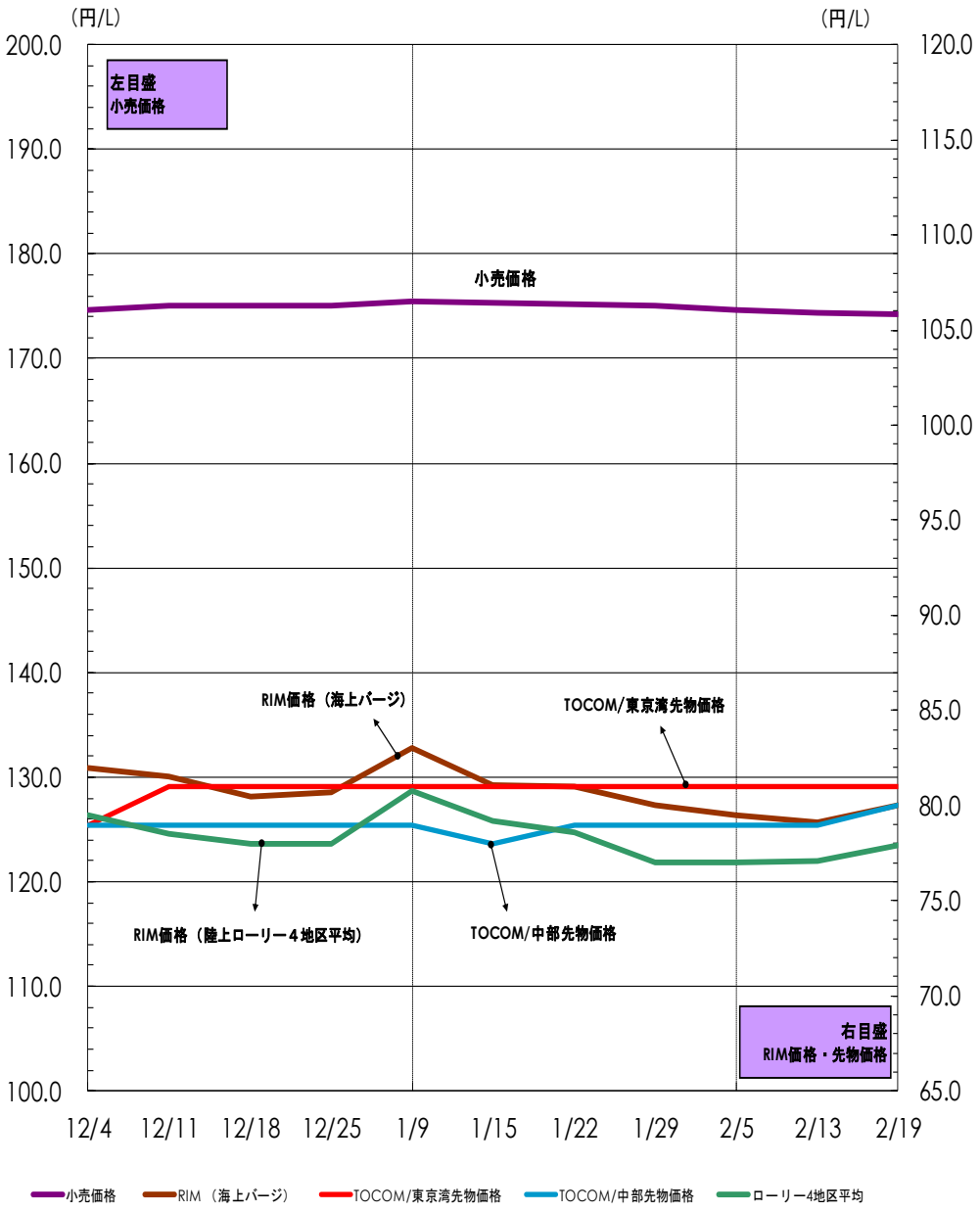
（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

(資エ庁公表) [週動向]		今週　(2/19)	前週　(2/13)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.3	174.4	▼ -0.1	23/9/4	186.5
	灯油	116.6	116.6	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	154.0	154.1	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/12/4　～　2024/2/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第45号）の公表は、3/1（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。